

# リスク情報活用の課題 について

2023年10月16日

リスク部会部会長  
成宮祥介 (JANSI)

# プログラム

## 講演

- ①13:40~14:05 (講演20分、質疑5分)  
「リスク情報活用の取り組みに期待すること」【JANSI成宮祥介氏】
- ②14:05~14:30 (講演20分、質疑5分)  
「リスク情報活用の実現に向けた戦略プラン及びアクションプラン」【NRRC桜本一夫氏】
- ③14:30~14:55 (講演20分、質疑5分)  
「リスク情報活用にかかるATENAにおける活動状況」【ATENA宮田浩一氏】

## パネルディスカッション

司会：JANSI成宮祥介氏

パネラー：東京大学高田孝教授、関西電力鈴江和昌氏、規制庁村上玄氏、NRRC桜本一夫氏、ATENA宮田浩一氏

- ①15:05~15:10 論点の説明 【司会 JANSI成宮祥介氏】
- ②15:10~15:25 ショートプレゼン パネラー3名から5分ずつ。
  - ・学識の立場から【高田孝教授】グレーデッドアプローチへの適用、PRAの開発度から定性的なリスク情報活用もあること。
  - ・事業者の取り組みとして重要点【関西電力鈴江和昌氏】安全性向上評価届出、定検時の活用などの事例紹介。将来への取り組み。
  - ・規制の立場から見たリスク情報活用【規制庁村上玄氏】規制での活用における課題。安全目標のNRAにおける議論。
- ③15:25~16:55 討論 90分  
論点に沿って、今後の我が国としてリスク情報活用の狙いとあり方、技術開発、意思決定対応方針などを、パネラーから意見を出す。適宜、会場からも意見を求める。
- ④16:55~17:00 まとめ  
司会から、頂いた主な意見を振り返る。

# パネルディスカッション

## 論点

1. リスク情報活用の目的：
  - リスク情報活用の定義
  - 安全性向上を適時適切に継続可能なように行うため
  - 不確実さのある事象の対策に関して、合理的で（理に敵った）実行可能な意思決定
2. 技術的な面からの問題点と解決方向性：
  - ① リスク評価技術の信頼性：PRA手法（外的PRAは認識論的不確実さの大きさから信頼性に疑義）
  - ② リスク情報（リスク評価からの知見）の活用：不確実さを適切に扱う意思決定と適時な意思決定
3. ヒエラルキー構造の安全目標：
  - 我が国の原子力施設の安全性を合理的・実行可能に向上するための安全目標の必要性
  - 我が国で議論はなされるが法的に制定される必要性
  - 安全目標の意義と使い方